

普及活動情勢報告（令和3年5月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

現場の声を拾い上げる！ ～露地野菜の産地化のための生産者の個別聞き取りを実施～



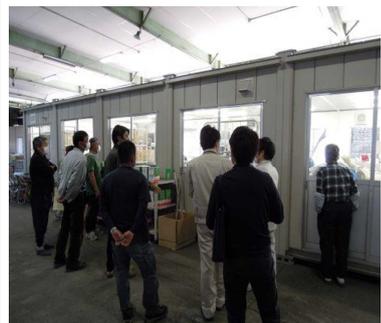
個別聞き取りの様子

5月7、19日、南国市の露地野菜産地化に向けて、JAと連携して生産者7戸を訪問しました。

南国市では、国営緊急農地再編整備事業による基盤整備が行われています。生産者の所得向上を目指し、栽培品目や機械化、販路探索などの産地化に伴う課題に生産者の意見や思いを反映するために要望等を収集しました。農家からは、「露地野菜はある程度面積が必要だが、手間はかけたくない」、「ニンニク類を作りたい」、「売り先や単価は確保できるのか」等、様々なご意見をいただきました。

農業改良普及課は、今後も聞き取りを継続し、現場に寄り添った支援をしていきます。

そぐりセンター利用説明会の開催



そぐりセンター説明会

4月27日にJA野市集出荷場において『そぐりセンター利用説明会』が開催され、生産者7名が参加しました。そぐりセンターはシミズ・アグリプラス（株）が運営し、受込量の調整をJAおよび利用組合が担っています。農業改良普及課は、調製作業員の労働力を補うため、積極的な利用を進めてきましたが、利用量が少ない時期があるため、説明会の開催となりました。

ニラの調製作業見学後に、「そぐりセンターの利用により、単収が向上した事例」が伝えられると、利用量を増やす意向を示す生産者がみられました。

農業改良普及課は、今後もそぐりセンターの利用拡大とそぐりセンターの安定稼働を支援します。

今年のユズの生産量は？ 物部柚子生産部会が着花量調査を実施



着花量調査の様子

JA高知県香美地区物部柚子生産部会は、5月10日と11日にユズ着花量調査を行い、部会役員等8名が参加しました。

この巡回調査は、産地の生産状況を市場等へ伝えることを目的に、毎年実施しています。農業改良普及課は調査に同行し、参加者全員で協議を行い、調査園地の着花量について判定しました。今年度は園地により、ばらつきはありますが、全体としては着花量はやや多いという結果になりました。

今後も農業改良普及課では、ユズの安定生産と産地力向上に向けた取り組みを支援します。

農福連携の推進



エンドウ豆収穫作業の様子

4月30日に南国市で農福連携の推進を目的に、管内の社会福祉法人が行う収穫や調製作業の様子を動画撮影し、作業内容等について聞き取りを行いました。

収穫作業や調製作業など連携した動作が必要な作業でも、切り分けをすれば、それぞれが出来る作業があり、支援員を含め複数人で一連の作業をされていました。

今後、農業の人手不足となっている品目の収穫や調製作業などをどう切り分けていけば農福連携が可能であるか等について、農福連携研究会の中で協議し、マッチングにつながるよう支援していきます。

J A 高知県香美地区なす部会が栽培講習会を開催



講習会で説明を聞く生産者

5月12日、J A 高知県香美地区なす部会がJ A 高知県香我美集出荷場で栽培講習会を開催し、生産者12名が参加しました。

管内では、ナスフザリウム立枯病の発生が確認されているほ場があり、農業改良普及課からは、ナスフザリウム立枯病と土壌消毒についての説明を行いました。特に発生の多かった圃場の生産者は防除薬剤のキルパーについて関心を示し、今年は3名がこの薬剤を用いた土壌消毒を行う予定です。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携してナスの生産安定に向けて支援していきます。

ミカンハダニ防除技術の高度化へ ～温室みかん部会現地研修会～



現地研修会の様子

5月12、14、20日に、J A 香美地区果樹部温室みかん部会が3地区で現地研修会を開催し、部会員23名が参加しました。

農業改良普及課は、薬剤感受性の低下が顕著になっているミカンハダニ対策として、天敵昆虫や気門封鎖剤の積極的な利用を呼びかけました。会では、天敵昆虫を利用するための準備や心構えについて、すでに利用を行っている部会員も交えて意見交換しました。「どんな薬剤を散布してもミカンハダニに効かない。他に考えられる手立てがないので天敵昆虫の導入に取り組んでみる」といった声が聞かれました。

今後は部会員の作型に合った防除体系を構築できるように、関係機関と協力して支援していきます。